

高橋恭子ゼミ2022年度卒業制作

東京銭湯の光と影

早稲田大学政治経済学部政治学科4年

1A191113-1

塩塚梨子

概要

卒業制作概要

「空前の銭湯・サウナブーム」。世間ではそう謳われ、連日テレビやラジオ、雑誌では特集を組まれるほど賑わいを見せている銭湯だが、実は年々数が減少傾向にあり、燃油価格・水道代の高騰から利用者価格も年を追うごとに値上がりし続けているのが現状だ。

しかし実際、普段から東京都内の銭湯に足繁く通っていると、減少傾向にある現状よりも、銭湯・サウナブームを肌で感じることも多いように思う。

例えば、人気の銭湯は整理券をもらい数時間並んで利用する客が後を絶たず、女性風呂にはDysonやRifaなどのいわゆる高級ドライヤーが並び、質の良いアメニティが充実している。さらに、他企業とのコラボグッズの販売や独自イベントの開催など、決して衰退産業とは思えないほど繁盛している銭湯は少なくない。

そこで、この減少傾向にあることを示すデータと実際の肌感に大きな差を感じた私は、この差について深く迫るため、銭湯における課題の「影」と、そのために創意工夫する経営者や団体の「光」という2つの視点を設定し、東京都内に対象を絞り、銭湯や銭湯に関わる企業・団体に取材を行うこととした。

この卒業制作では、はじめに『銭湯のこれまで』と題して銭湯の歴史を述べ、第2章『銭湯の現在』では、実際の東京都内の銭湯の数の推移や利用価格の推移、現在問題になっている課題を抽出し、東京都生活文化スポーツ局消費生活部生活安全課公衆浴場担当の方の取材と共に紹介する。そして第3章『銭湯のこれから』では、実際に取材を行なった4つの代表者の方々の取材を掲載し、それらをふまえた上で、最後に今後の東京都内銭湯の展望について考察し、卒業制作として総括することとする。